

事業を通じてより良い社会の実現を



古典で感謝のダンスを披露する Sto.Nino 小学校の生徒たち
(フィリピン・ダバオ市)

三菱商事は、事業を通じ物心ともに豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献すべきであるとの企業理念を掲げ、企業の成長と社会の持続的な発展の両立を目指している。また企業行動指針として、本業を通じての地球環境への配慮を宣言するとともに、より良い社会の実現に向けて、積極的に社会貢献活動や国際貢献活動を取り進めていく方針である。

地域ニーズに沿った貢献活動推進

いま世界中で、気候変動・地球温暖化によるさまざまな被害、生物多様性の消失、水資源・食糧の危機といった環境問題や、発展途上国における人権・労働問題、貧困対策などの社会問題が深刻化している。当社は、熱帯林再生実験プロジェクトやサンゴ礁保全プロジェクトを通じて環境分野での活動に注力するとともに、国内でのさまざまなボランティア活動、世界各地における国際貢献、国内外での留学奨学金制度、国内での若手芸術家支援など、多様な社会貢献活動に取り組んでいる。

特に国際貢献の分野では、世界約 80 カ国に展開するネットワークを活かして地域社会の発展に寄与するため、海外の拠点からその地域のニーズに合った案件を募り、独自の支援をおこなっている。この支援は環境、教育、

三菱商事(株) 環境・CSR 推進室
高橋謙也

福祉、国際交流、文化芸術などの幅広い分野を対象としており、1991 年の開始以来、累計で 330 件以上の支援実績がある。2008 年度からは、従来から取り組んできた地域社会貢献活動をさらに充実させるために、中長期の案件も手がけている。

国際貢献分野の対象は多岐にわたるが、近年は環境および教育分野に力を入れている。特に、発展途上国では子どもたちの教育環境が十分に整備されているとは言えず、次代を担う彼らが安心して学べる環境づくりに多少なりとも貢献したいということが、海外拠点との共通の思いである。

今回は、2008 年度に実施した教育分野での貢献策のうち 2 カ国での事例を紹介したい。

国の財産である子どもたちのために —コートジボワールで児童図書館改修

2008 年 11 月 27 日、コートジボワール国立図書館内児童図書館引渡式が、来賓の岡本大使ご



引渡式に参加の皆さん



新しくきれいになった図書館の喜びを語る子どもたち

夫妻および同国文化・仏語圏大臣を含む総勢 200 人ほどが参列し、盛大に執りおこなわれた。当社がこのプロジェクトを国際貢献施策として取り上げたのは、他の案件と同様に、現地駐在員の熱意によるところが大きい。首都アビジャーンの中心部には大きな図書館があるが、“部屋は暗く、蔵書も古く、通気も悪くて子どもが使いたがらない”との噂を耳にした駐在員はすぐに現場に足を運んだ。1971 年に建設され老朽化した図書館の実態を目にした瞬間、同国での社会貢献のキー・コンセプトを“その国の財産である子どもへの投資”とすることに決めた。そして、建物の改修とパソコンなどの機材供与を内容とした貢献策をまとめ上げた。改修工事の実施にあたっては、作業遅延などの問題にもたびたび遭遇したが、図書館長の協力もあって無事改修工事を終えることができた。改修工事の開始から終了までの一部始終を見てきた駐在員からは、式典での数々の謝辞よりも最も感銘を受けたことは、子どもたちが和気あいあいとしながら読書をし談笑する姿に接したことで、本プロジェクト実現の達成感を関係者で共有できたとのコメントが寄せられた。

教室の建設協力で人材育成に貢献 —フィリピンでの教室寄贈プロジェクト—

全人口の 1 割弱が海外就労者として活躍しているフィリピンにとって、人材は最大の国家資源である。にもかかわらず、フィリピンは全土で慢性的な教育施設不足に見舞われているとの情報に接したマニラ支店では、人材育成に直結する教育分野に焦点を当てた CSR 活動の重要性を認識し始めていた。アロヨ大統領も就任後「貧困撲滅の解決と国家開発の将来は教育にかかっている」として、「すべての村に学校を」とのスローガンを掲げ、教育を国家最重要施策の一つに据えた。これを受け、同国労働雇用省は海外在住フィリピン人を中心に資金を募り、教育省、外務省、フィリピン華僑商工会議所と連携し、全国の公立小・中学校で不足している教室を建設・寄贈する CGMA (Classroom, Galing sa Mamayang Pilipino Abroad)



教室贈呈式典でのフィリピン政府・当社関係者

プロジェクトを 03 年に立ち上げた。

同年末に、当社マニラ支店は労働雇用省の呼び掛けに応え、パターン州の Marvels 中学校向けに 1 教室 (7m × 7m) の建設資金を寄附した。教室の引渡しが無事に完了し、その後の地域住民の評判も非常に良いことを確認し、06 年度からは同プロジェクトに本格的に参加することを決め、フィリピンの全 3 地域 (ルソン、ビサヤ、ミンダナオ) において順次 20 教室の寄贈を実施した。今年 3 月には、ミンダナオ島ダバオ市近郊の Sto. Nino (サント・ニーニョ) 小学校 (学童数約 900 名) で、CGMA プロジェクト関係者と当社投資先 DCCC 社 (ダバオ・セントラル・ケミカル・コーポレーション) 幹部を招き教室寄贈式を開催した。フィリピン各地に点在する小・中学校での教室寄贈式に出席すると、教師や父兄のみならず、その教室で元気いっぱい勉強している大勢の子どもたちからこぼれるような笑顔で感謝の言葉を受けるたびに、着実に地域社会に貢献しているという手応えを感じる。また、地域社会の人々に当社の企業活動をつぶさに紹介できる貴重な相互理解醸成の場ともなっている。

*

世界的な景気後退により、企業を取り巻く環境は非常に厳しい状態にあるが、当社の企業文化には地域社会や国際社会とともに発展していきたいという思いが深く根づいている。今後も幅広い分野で継続的に活動するとともに、社員の参画を積極的に支援していく方針である。

◆三菱商事の社会貢献活動

<http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/csr/contribution/>